

島しょ部海底光ファイバーケーブル整備に関する今後の方針検討委員会
(第2回) 議事要旨

1 日時

令和8年7月2日(木) 16:00～18:00

2 場所

東京都庁第一本庁舎 24 階 特別会議室 C 及び WEB 会議システム

3 出席者(敬称略)

(1) 検討委員会委員

- ・ 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
田島 芳満 (委員長)
- ・ 東京農工大学 総合情報メディアセンター 教授
升屋 正人 (副委員長)
- ・ 東京大学 地震研究所附属 火山噴火予知研究センター 教授
市原 美恵
- ・ 東京都市大学 理工学部 電気電子通信工学科 准教授
林 正博
- ・ 淑徳大学 コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 教授
松野 由希

(2) オブザーバー

- ・ 東京都総務局 行政部
- ・ 東京都総務局 総合防災部
- ・ NTT 東日本(株) ビジネスイノベーション本部
- ・ (株)NTT-ME 東京ブロック統括本部

(3) 事務局

東京都デジタルサービス局 デジタルサービス推進部 つながる東京推進課

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 出席者の紹介（委員・オブザーバー）
- (3) 前回会議でのご意見に対する追加調査結果報告
- (4) 海底光ファイバーケーブル整備等の今後の方向性
- (5) 閉会

5 委員からの主な意見

<ネットワークの冗長化>

- ・ダブルルート等には、費用対効果のみでは評価できない定性的な価値もある。具体的には、人命への影響の低減、行政機関の機能維持、技術・情報の流通促進、人とのコミュニケーション向上などの効果が考えられる。
- ・海底ケーブルの信頼度は、本土と比較すると十分高い水準とは言えない印象である。信頼度の評価については、今後の経年劣化や故障発生状況を踏まえ、継続的に検討していくべきである。

<設備等の強靱化>

- ・陸揚部は台風の影響が大きなリスクである一方、深海部においても損傷が発生しないわけではないとの認識である。小笠原のような長距離区間では、原因不明の損傷が発生する可能性も検討した方がよい。

<予防保全型の維持管理>

- ・25 年経過後の一律更新を前提とするのではなく、ケーブルの健全性や老朽化の状況を確認しながら、必要に応じて防護管を交換することで全体の長寿命化を図る考え方は理解できる。
- ・技術革新の動向について今後も継続的に注視していくべきである。光ファイバーのモニタリング技術など、新たな技術を点検や維持管理に活用することについても検討を進めるべきである。

<衛星通信による通信手段の確保>

- ・バックアップ回線（衛星回線）は、災害時のみならず、平常時から有効に活用できる仕組みとすることが望ましい。

以上